

(地独) 京都市産業技術研究所における 伝統産業へのデザイン開発支援

地方独立行政法人京都市産業技術研究所 デザインチーム 研究副主幹 比嘉明子

◇ はじめに

京都は、平安期以降の宮廷や寺社用の製品づくりから始まった伝統産業と、これを基盤に立ち上がった精密機器、セラミックス分野等のハイテク産業が並存する多様なものづくりの地である。京都の伝統工芸品は、高度な技とデザインにより、「京もの」と呼ばれ、現在も高級品としてのブランドを保っている。しかし消費者ニーズの多様化や社会構造の急激な変化により、伝統産業の状況は大幅に需要が減少するなど、特に厳しく、伝統産業を担う事業者が事業継続する上で多くの課題を抱えている。

地方独立行政法人京都市産業技術研究所（以下、京都市産技研）では、京都産業の活性化を実現するため、「技術相談」、「試験・分析」、「研究開発」、「ものづくりの担い手育成（人材育成）」「研究会活動」及び「知恵産業の推進」の6本柱を基本業務としている。この中の「知恵産業の推進」とは、企業独自の強みや京都の特性を活かしながら、新たな知恵に

よって独自のビジネスプラン・技術・商品・サービスを開発して顧客創造を図ることを「知恵ビジネス」と定義し、これを目指す企業の発掘とその成長支援等を通じて「知恵産業のまち・京都」の実現に取り組むものである。

京都市産技研は、これらの6本柱を連動させ、かつ他の産業支援機関と協力し、伝統産業から先進産業までの多様な京都の中小企業等に対して、研究開発や製造工程の改善等で直面する課題や問題を解決できるよう、また、新商品や新技術をより創出できるよう技術面からの下支えと成長支援を公設試験研究機関として総合的に行っている【図1】。

本稿は、京都市産技研が実践している伝統産業へのデザイン開発支援として、デザインチームの近年の支援事例を紹介する。

◇ デザインチームによるデザイン支援

京都市産技研デザインチームでは、工芸やプロダ

● 図1 京都市産技研の業務

